

精華人 SEIKAJIN

1999
OCTOBER

Kyoto Seika University
Alumni Association KINOKAI
SEIKAJIN

7

京都精華大学同窓会 木野会
京都市左京区岩倉木野町137
〒606-8588
T.075-702-5201 F.075-721-9019



みんな元気!?

M. Yoshikawa

10.10.10「精華人の集い」総決算レポート特集

30周年を祝った人々

数珠つなぎ 第6回

東京支部同窓会報 江戸の瓦版 5
西日本支部会報 KINO WEST 3

Teachers Voice+追悼
from KINOKAI
THIS IS MY SPACE
WHO'S WHO
INFORMATION

迎えたのだ。私があのステージで演奏し、喜び、楽しみ、祝った事が私の精一杯の感謝の表れであり、祝福なのである。

「止まったままの時間」

吉津依紗(旧姓 斎藤いさ)(85E)

精華を卒業して早12年。随分前の事の様だが、私は未だに精華を卒業していない気分である。何故なら私のダンナさんもまた精華人だからだ。おまけに当時の仲間達も、いつでも会えるところに住んでいる。だから、今改めて「同窓会」と言われても懐かしむ気になれず、それでも精華の変貌ぶりを見に、昨年の「精華人の集い」に参加したが、立派な建物が立ち並び、最新設備も整い、すっかり小洒落た精華に、私は戸惑った。

「京産大の裏の」と言われても、独創的で毒々しくて、よそ者を受け付けない雰囲気が良かった。入学当初はその雰囲気に馴染めなかった私も、いつのまにか麻痺に取りつかれた様にすっかりその雰囲気を満喫していた。今、私の中でその時の時間がすっかり止まってしまっている。だから私には「同窓会」は必要ないのである。



PRE EVENT インドネシア舞踊



PRE EVENT ベトナムの踊り

「パワーと刺激の10・10」

林 智子(旧姓 田中)(80E)

卒業して以来、本当に長い間大学へ足を運ぶことがなかった私ですが、精華人の集いという大変大きなイベントに参加させて頂き、またスタッフの一人として司会もつとめさせて頂き、大変光栄です。

大学はいったいどんなふうになっているのだろうと、期待に胸を膨らませて当日は、予定の時間より随分早くついたのです。所々に昔を思い出させるものもありましたが、大学は確かに大きくなっていて驚きました。前日から、徹夜で頑張っていた現役の学生の方々、当日早くから準備をしていたスタッフの皆様のエネルギッシュな姿をまのあたりにし、私自身に大きなパワーが伝わってきました。そしてそのパワーをもらって帰ってきました。懐かしい友人との再会や新たな出逢いをもつことができ、そして全国各地で精華人が第一線で活躍していることも知ることができて刺激となりました。これを機に私自身ももっと頑張って生きていきたい!

精華大の卒業生として胸を張って生きていきたいと思いました。



PRE EVENT ジャズコンサート
(Ron Hadly Jim Cameron)



PRE EVENT ジャズダンス部

「精華人?」

岡本康児(70P)

昨年の春、何年かぶりかでキャンパスに足を踏み入れた。学生はもちろん教職員も入れ替わり新しい建物が立ち並ぶなか、幾つかの古びた校舎と古参の教職員の顔がわずかに思い出を現実にも重ねあわせてくれた。後になって、10月10日の同窓会「精華人の集い」の案内をもらい、「社会で活躍する」



PRE EVENT ちんどん屋パレード
東西屋(河原町四条~三条)

人祝30 々つ周年 た年を

「精華人の集い」

10.10.10

「懐かしい声」

権 貴玉(コ キョク)(82XJ)

久しぶりに出町柳から電車に乗って岩倉へ行きました。

随分懐かしく、少し照れ臭い気持ちでしたが、学校に入ると、突然聞き覚えある声に驚かされました。その人は、韓国留学生同窓会長の金 琪祚(キム・キジョ)さんと奥さんと一緒に出席していたのです。11年ぶりの再会に昔のことを思い出し、話が弾みとても楽しい一日になりました。

「30歳を祝うステージ」

フォークソング部
回岡健太(97L 在学生)

毎年、この京都精華大学には祭りが2回ある。五月祭と木野祭である。この2回の祭りは京都精華大学の学生が一つになっていると感ずることが出来る最高のイベントであるが、1998年はそれが3回あった事になる。30周年記念である。私はその時2回生で大学生活を満喫していたので、そのイベントに参加出来たことを大変嬉しく思っている。

普段のフォークソング部定期演奏会(ライブ)はL-104で行っているのだが、祭りの規模になると、大ステージ、小ステージでライブをさせてもらえる。その規模のものがまた一つ出来、そこで演奏できる事の喜びを感じていた。

私がいまだ京都精華大学に入っていないければ、今の私の周りの友人、バンドの仲間と出会うことは無かった。偶然ではあるかも知れないが、私を様々な人々と知り合わせてくれた事に感謝をしている。その大学がようやく30歳を

1998年、精華大学が創立30周年を迎えた。この大学に関わった全ての人の連のアドレナリンが、この年フツフツと沸き立った。30周年実行委員会が、教員・職員・学生、同窓会で組織されプレイベント、10・10・10集会、記念講演会、棟方志功肉筆画展、30周年記念誌発行と、内容も充実したものに仕上げられた。交渉に続く交渉で、実現されたすべての企画の企て者たちに、絶賛の拍手を送りたい。



PRE EVENT 軽音楽部ライブ

かし岩倉まで来てかつて通った道がない。迷う…遠くにりっぱな駅「京都精華大前」便利になったなあ。駅を渡り校内に入る。

「すばらしい」「きれい」「施設整っている」もう昔のおもかげはない、私の学生時代に建てられた校舎が一番古くなっている。懐かしい友達も少しは年をくっていた(自分も)が昔のまま。と、もう帰る時間。ささと帰ればよかったのだが、せっかくならんだから鹿(学内の鹿苑)でも見に行こうと思ったのが間違いだった。

その帰りナバ先輩と会って木野会西日本支部長の津下さんを紹介された。

徳島県分会を作りたいので協力してほしいとの事、先輩の手前断れないので「いいですよ」と言って帰ったのが、後に徳島県在住の卒業生一人一人の家に電話をかけまくるといふトンでもない役が回って来ようとは思ひもよらなかった。

徳島県の皆さん。同窓会は年代を越えて楽しめます。ぜひ徳島県分会同窓会に参加して下さい。結構面白いですよ。



PRE EVENT 昭和精吾パフォーマンス

「長い時間の経過」

橋本紀江(87P)

「精華人の集い」に行ってきたきっかけは、友人の誘いからでした。案内をいただいた時は、「フーン」と思っただけで特に参加しようとは思いませんでした。会場に2~3時間ほどいて、学生時代の仲間と久しぶりに話しました。卒業してから、そんなに長い時間が経ったとは思いませんが、まわりを見渡すと色々な人達があります。いかにも作家風の人、主婦だと思われる人、個性的な服装の人、犬の「おおしま」もいました。私にとっては、そんな長い時間ではないけれど「精華大学」にとっては、長い時間に色々な人を送り出したのだなあと思った一時でした。

世の中、景気が悪い、世の中色々な問題を抱えているけれど、この大学は、いつまでも弾けるような元気良さを保ってほしい。校舎なども増え、ハード面では充実しているのだろうけど、ソフト面を大事にしてほしい、そう思っています。

「参加がくれた思いで」

猪狩智子(旧姓 平井)(80E)

「精華人の集い」には木野会の役で呼びかけ人として同窓生に電話をしたり、案内の発送を手伝ったりとスタッフ的な参加からはじまりました。日も迫っていましたので京阪神の方々を中心に電話しましたが、皆、好意的で学校の変貌ぶりをお伝えすると驚いておられ懐かしい話に花が咲きました。

さて当日、何人の同窓生に会えるだろうかと楽しみに受付を手伝っておりまして、少しさみしいですが三人の同期の方々とお会いすることができ、またその前後の年代の方々と小さな輪ができミニ同窓会の始まりです。皆さんい



PRE EVENT フォークソング部

精華の出身者が自らの経験を現役の学生に話す会への出席を要請された。

硬直した伝統も、校歌や校章さえなかった学校に通っていたのに、卒業してから「精華人」という言葉で一概に括られることに抵抗を感じる。もしも「精華人」という名称に「こうあるべき」という規範が付加されているのなら、俺はそう呼ばれることを望まない。それにこの企画はどこの立身出世のノウハウ御開帳的に聞こえ、自分の知っている精華という学校にそぐわないのではと思った。が、考えてみるとこの歳でブータ口の俺自身が企画の意図にそぐわないのではないかと。同窓会の人たちは何を断っていたのか。

だが、同窓会に係わっている同級生はそんなに気負ったものではないと言う。彼と話のやり取りをするうちに、時間軸の座標はそれぞれ違っていても木野のキャンパスという空間を共有した教職員と学生が受け継いできた。世代を超える無次元の緩やかな連帯というものがあるならば今の学生達と一緒に感じてみたくなった。

自らを異環境に置いた体験はいくらでも語れるが、その結果としての「成果」とか「業績」など俺には何もない。その同級生はそれでも好いと言う。ただ、精華という学校がそうであったように、既成の価値観に縛られない人間でありたいと望んで生きてきたことを話したいと思っただが、はたして若い学生にアピールできるのか少し疑問だった。

俺は「各方面で活躍する卒業生」には当たらない。当日、用意された職業カテゴリーの表示に適当なものがなかったので、いい加減にでっち上げてテーブルの上に置いたところ、二人ほど話を聞きにやって来た。こういう怪しいおっさんの話を聞きたいという輩がまだ精華にいてくれて実はほっとした。彼らは熱心だった。そして持ち時間はあっという間に過ぎてしまった。

はたして彼らは精華という媒体を通して世代の違う俺と自分達とをどう関連付けたのだろうか。単に人的な世代の差だけではなく、その媒体のハードウェアの部分さえも激しく変化しているのだ。たとえば当日の会場だった図書館や食堂に昔の面影はない。豪華な建物群の陰をさがしても掘つ建て小屋のアトリエやイングリッシュ・ハウス、ネズミの巣のようなラグビー部のボックスも今はない。薄ぼんやりとした連帯とやらを求め、タイムマシンに乗って来たかのように現実と記憶の中の精華との狭間を彷徨する俺と出会う、話を聞きに来た二人がどう感じたのか、そして彼ら自身が今の精華をどう評価しているのか、フィードバックを得られるほどの時間がなかったのが残念だった。



PRE EVENT 対談：宮崎学氏 × 学生



PRE EVENT 憂歌団ライブ



PRE EVENT モンキーバンチ氏 講演



PRE EVENT ノーム・チョムスキー氏 講演会「21世紀の教育」



PRE EVENT モンゴルのモーメイ・馬頭琴と踊り



PRE EVENT ブーラン・デヴィ氏 講演と映画



PRE EVENT 演劇部「火男の火」

「はめられた徳島県」

原田明子(旧姓 三代)(78D)

「明石大橋も架かったことだし、ドライブがてら同窓会に行こう。」

ということで、子供達と徳島から2時間で京都まで飛ばして来ました。懐④

名古屋、滋賀県の大津、信楽、大阪、岡山の各地で呼び掛けの集会をもち、述べ百数名の同窓生と10・10での再会を話しました。また10・10当日参加できない人のために、画像で参加しようと、メッセージをビデオに収録し、10・10当日の会場でビデオレターとして放映されました。一方通行のモニターTVでの参加ではありましたが、多くの人達に楽しい思い出を伝えることができました。また海外では、韓国、台湾にて木野会支部の発足に向けた集会をもち、今後の活動を話し合いました。

第二に、30周年記念誌です。「セイカラしさ」をキーワードに実行委員会で喧々譁々の討議が繰り返され一時は、一年先発行なども検討される中で、同窓生(学生)は「精華人の記憶」をコンセプトに学生生活を写真で見るとリアルシーンの集大成としておこない、大学側は「精華30年の歩み」を記録と年表を中心に写真を合わせながら編纂する。両者の立場で30年を纏り、それが記念誌の真ん中で合わさり、一冊の本としてまとめられました。多くの方から素晴らしい記念誌ができたと言葉を戴きました。これは教員、職員の方々、同窓生の皆様の多大な資料提供のご協力の御蔭で発行できたものです。

“30周年10・10精華人の集い”は好天に恵まれ、多くの教員・職員、退職されている教員・職員の方々、同窓生、学生、これまでに精華の為に御協力を戴いた皆様の御参加の中、大学中庭にて開催されました。韓国からも代表で二名の同窓生が参加して下さいました。会場では当時の姿と変わらない先生、白い物が多くなった頭の同窓生など、参加者一同、自分達の若い頃を思い出し、飲みながら話が弾んだ一日でした。

この30周年記念事業の一部に関わる中で、現役の学生と協同でおこなえたことは、大切なことだったと考えます。同窓会「木野会」は今後学生と協同で何かできないか、いや、やっというかと考えています。また私達は色々なことを通じて大学に関心を持ち、現状の大学に眼を向け続けていくことが大切で、そのことが少しずつ大学運営に影響を与え大学の発展にも繋がることになると思います。

木野会は、これから京都(本部)からの発信だけでなく、各地に出掛け、その地域の同窓生と集いを持つ予定にしています。同窓生の近況や意見を聞き、大学の現状を伝え、木野会の目的・活動を話に行きます。皆様からのご要望もありましたら連絡、御協力をお願いします。また木野会会報誌も新しく名称を「精華人」と改め、情報・ネットワーク作りに役立つように届けて行きたいと思えます。会報誌に対する御協力も合わせてお願い致します。

ご家庭で、多方面の仕事で多くの“精華人”が御活躍されています。同窓生が集まれば、なぜ何とも言えない精華らしさを感じられると聞きます。伝統として多くの素晴らしい“精華人”が育っています。私はこのことを誇りに思っています。



自治会長 上山康彦 (96L)



木野会韓国支部 支部長 金 琪祚 (82XD)



学長 中尾ハジメ



キャリアセミナー



ゴスペル 斉藤由美子 (旧姓 大東) (80E)

“い表情で良き人生を過ごされて今日は、ここへ忘れもの(あの時の自分に少しでも戻れたら)を捜しに来られたのだなあと思いました。在校生の方々も親切で礼儀正しく、精華スピリッツは受け継がれているなあと思いました。中尾学長のあいさつも、とても光っていて思いで深い一日でした。”

「28年ぶりの思い出」

新谷一男 (70P)

本当に楽しかったですね。まるで28年前にタイムスリップしたみたいで、少しの時間もかからず、一気に学生時代へと気分だけは若返った。同じ学年、同じクラス、毎晩のように溜まり場(サイモンとガーファンクルを聞きながら)飲んでいたメンバーとの28年ぶりの再開。ほとんどが遠方からのメンバー、北海道、東京、金沢、福山など、こんな機会でもなければ、めったにこれだけそろって会えることはなかった。その晩は、宿舎のホテルに集合し、それから日付の変わるまで止めど無くお互いの近況やら、この20数年の人生(ちょっと大袈裟かもしれないが、それぞれ、紆余曲折の年数を重ねてきた)の変遷など話題は尽きない。互いに相手を呼び合う時も、学生時代そのままのあだ名で、何と心地よい28年ぶりの呼ばれ方か。記念誌の写真でも、おおいに杯がすすんだ一夜だった。

「30周年の集いを終えて」

同窓会木野会会長 入江 完 (68P)

“創立30周年の集い”が、昨年10月10日に開催されました。

教員・職員、現役学生、そして私達同窓会の三者にて実行委員会を作り、協同で色々なことを行いました。学生諸君は、この節目に現役として参加することに意義をもち、10・10集会の前5日間をプレイベントとして、数々の計画を実施し10・10に向けムードを盛り上げてくれました。

同窓生の私達は、同窓会「木野会」役員の外に有志の参加も募り、部会を設け積極的に作業に協力しました。

第一は、10・10集会への呼びかけです。遠方の方、帰国されている同窓生などに案内状の送付以上のことをする必要を考え、試みました。その中のひとつに、東京、新潟、仙台、長野、金沢、⑥



棟方志功展記念シンポジウム

<左から>

笠原芳光氏 (宗教思想史家)
中原佑介氏 (美術評論家)
高坂制立氏 (光徳寺住職)



棟方志功肉筆画展 — その宗教的な美 — 会場風景



大懇親会



同窓会 木野会事務局長 新谷一男 (70P)



太鼓「祭衆」 滝本ひろ子 (89L)

■精華大学同窓生、職員を交えて、数珠つなぎで紹介して頂いています■

- 68 E 林 直子 (旧姓相原)
- 68 E 野村 久子 (旧姓岡本)
- 68 E 黒田 妙子 (旧姓山根)
- 68 E 高橋 洋子 (旧姓山根)
- 69 D 平尾 律子 (旧姓新池)
- 69 D 森下 命 (旧姓吉野)
- 69 T 福田 妙子 (旧姓北河)
- 69 T 牧田 通子 (旧姓辻)
- 69 T 今井 真理子 (旧姓保母)
- 69 E 小林 ふみ子 (旧姓依田)
- 69 E 松下 恵子 (旧姓寺尾)
- 69 E 久留島 光子 (旧姓玉江)
- 70 P 臼井 真利子 (旧姓中村)
- 71 P 村岡 美実
- 82 S 高倉 節法
- 71 P 森田 洋子 (旧姓人見ひろ子)
- 86 P 高橋 雅史
- 86 P 米田 和秀
- 87 P 築山 健民
- 87 P 堤 武止
- 87 P 小柳 和明
- 85 P 後藤 智子 (旧姓黒川)
- 85 D 福田 裕子 (旧姓藤井)
- 85 D 藤原 恵洋子 (旧姓西田)
- 85 J 日浦 美穂
- 85 J 山中 麻由美 (旧姓山中)
- 86 T 山岸 大晃
- 84 S 黒田 浩一
- 84 S 和知 康司
- 82 M 光澤 佐
- 82 M 田中 今子 (旧姓佐藤)
- 83 P 深井 裕子
- 81 Z 山口 裕之
- 81 Z 山口 里香 (旧姓寺村)
- 81 D 川入 祥弘
- 81 Z 村尾 すなは
- 81 Z 谷口 年三
- 81 Z 田畑 徳
- 89 J 高戸 涼子
- 88 J 釣 井明
- 87 C 高田 典行
- 87 C 中井 和仁
- 88 J 中井 公子
- 86 S 西村 成生
- 77 S 高橋 克明
- 77 S 浅井 直実 (旧姓清水)
- 79 XZ 44 増田 浩三
- 74 D 増田 浩三
- 74 D 吉村 弘之
- 74 D 野村 宗男
- 74 D 渡辺 均
- 74 D 阪 七雄
- 74 P 山羽 敦子



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。



●主編
●京都府岸和田市在住
●仕事を持つ主婦
寒いアトリエで自販機のコーヒーを飲みながら空を見つめ、数珠の白熱灯に泣いた娘と、「オッ」と日本ザル出沒注意！か！届いた回覧板にほくそえむオバチャンとが実は同一人物である事はだれも知らない(知りたくはない)こと岩倉はミステリアスゾーンでございます。私は元気でここにいます。

人文学部設立10周年記念PARTY

日時

2000年2月26日 / 午後2時より

会場

京都ホテル

開催!

尚、詳細は京都精華大学 企画室 (TEL. 075-702-5201) まで。同時に、企画・実行委員も募集しております。

ティーチャーズボイス

昔といっても、私が学生でなくなった教師になった頃のこと。つまり、京都精華短期大学ができて、まだ間もないころのこと。

今でも、どうかかと、ときどき感じてしまうことがあるのですが、あのころは本当に教師というよりは学生みたくでした。経理課に給料をもらいにいくのも、なんだかアルバイト料を受け取りに行くような気分でした。経理課のお姉さんも、そんな目をして見ていたような記憶があります。

いつも何人かの学生たちが、そんな青二才の教師である私といっしょに、何かしよう、何をしようかと、ときには不発に終わる企てを、つぎからつぎへと、試みていたことが思いだされます。谷の水溜まりに金魚を放してみたりという、超かわいらしいこともあれば、デモにいく計画をたてたり、あるいはなぜか勉強会をするときめたり。みんな何か

昔の学生、今の学生 中尾ハジメ教授

京都精華大学学長

したいという気分がいつぱいで、じつはほとんど同じように何かしたかった私も、そこにいたということでした。今の学生諸君がきけば、なかば馬鹿にし、なかばうらやましく思うにちがいありませんが、あのころの学生は露骨に「何かしたい、何かすることを考えようよ」と恥ずかしげもなく口に、身体を動かしたものです。それは、私と同類だったから聞けた言葉かもしれませんが、そういえば最近あまり聞かなくなつたような気がします。もちろん、心の耳をちゃんと開けば、今の



学生でも「何かしたい、何かすることを考えようよ」といっているのでしよう。

今でも、外から来た人たちは、京都精華大学の学生が自発的に動いているように感じるといいますから、あの何かしたくてたまらないという気分と、それゆえの企てが、この大学の空気のようになつて残ったのかもしれない。ただ直接目に見えることだけでいえば、大学のまわりの山を歩いていて、学生に出会うことはほとんどなくなりました。

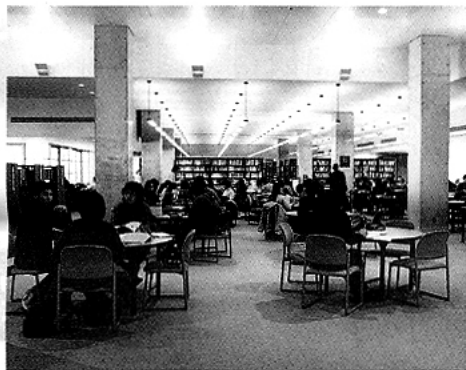
それは散歩にすぎないといえ、それまでのことですが、若い人の散歩には、なにか面白いことを探してやろうという気分があるものです。食堂や喫茶室の居心地がよくなつたせいかもしれませんが、いつかは、あのちょっとハングリーな感じの「何かしたい」という露骨な声をもう一度聞きたい、いや聞けるものだと思っています。

従来の図書館機能とAVセンター機能等を統合して新築された情報館をご存知ですか？この情報館が新しく開館して、この9月16日で丸2年が経ちました。

昔の明窓館1階に位置していた旧図書館と比較すると、新しい情報館は広さ的にも機能的にも格段に使い勝手が良くなったのではないかと思います。

以前の手狭な図書館では、比較的古い図書等を市内の倉庫に預けていたので、すぐに利用できない不便をかけていましたが、現在は所蔵している全図書約17万冊がすべて館内で手にとつてご覧いただけるようになりました。また、皆さんの在学中からもっと文庫や新書を増やしてほしいとの要望がありましたが、昨年の夏休み

に岩波、新潮、角川



卒業生のみなさんへ 上田修三

京都精華大学情報館 職員



などの基本的な文庫を全点取り揃えることができました。今後とも継続して資料内容の充実を計っていく予定です。また、情報館では利用者を在生や教職員だけに限定することなく、卒業生はもちろんのこと、一般市民の方々にも図書資料等を利用できるように情報館を一般開放しています。現在でも大阪や滋賀県からお越しになる方、京都の他大学の学生、先生方、近隣の中学・高校生、また小さなお子様連れ方など、ほんとうにたくさんの方の一般利用者のみなさんに来館していただいております。

また来館されていない卒業生の皆さん、母校に来られた際はぜひ情報館を覗いてみて下さい。卒業生の皆さんへは、もちろん無料で利用証を発行しております。皆さんの来館、ご利用を心からお待ちしております。

酒井政雄先生を偲んで

VCD教授 松味利郎



酒井雅雄 名誉教授
1999年7月逝去

もう、ずいぶん前のことになりましたが、ある日先生の研究室を尋ねたときのこと。「これ、誰か分かりますか」といいながら、一枚の肖像写真を見せられました。そこには髪を七三分けた、ダンディな青年を感じさせる男性が写っていました。思いあぐねていると、「実は私ですもん」といって茶目つぷりたぷりに笑われました。

京都精華短期大学の設立準備段階から参加され、レタリングと写真を中心に、幅広い授業を永年担当された先生は、まさに精華デザイン礎を築かれた存在です。

入学試験の時には、率先して要所に案内板の墨書をして下さったので、受験生や教職員は、いつも風格のある案内標示を見る事ができました。

つねに微笑をたたえ、温厚な先生はまた一方、将棋に関しては大学ひろしといえども、右に出る人はいないほどの強者でもあられた。また定年後は、自宅の庭で手塩にかけた椿の花を地域の人に開放し、鑑賞会をひらくなど趣味のひろい方であられました。

デザインの仕事には、広い知識と、時代を的確に切りとるセンスが必要ですが、これらデザインに必要な要素を、先生の生活態度の中から教えられました。

お別れの日は雨模様でしたが、祭壇に飾られた写真を見て、一瞬、あの談笑時が思い浮かびました。以前研究室で見せてもらった、見覚えのあるお姿がそこにありました。

悼んで先生の御冥福をお祈り申し上げます。



親愛なる原田先生

88 E 伊藤文枝(旧姓 基)



原田弘人文学部助教 1998年9月逝去

拝啓、先生ごぶさたしております。先生が天国へ行ってしまう前から、もうすぐ1年になるうとしています。私達海外研修メンバーは皆、先生が亡くなってからとてもさみしい思いをしております。

10年前、アメリカへ海外研修へ行った時、私達は1ヶ月間寝食を共にし、まるで家族のように泣いたり、笑ったりして本当に楽しかったです。よね。覚えてますか? キャンプへ行った時、満天の星空の下で、道路

に寝ころがりいくつもいくつも流れ星を数えた事を。時には女性ばかりの中で、口論の仲裁に入ってもらったり、まるで本当のお兄さんのように接して下さいました。なにより私達に、自分の意見を持つという事をアメリカで教えていただいたように思います。

阪神大震災の時は、お互い無事でよかったと喜びあったのも束の間、病気で倒れられ、一度はよく聞かれたと聞いていたのに、亡くなられたと聞き、本当に信じられなかつたです。今でも、先生のいつも明るくて、大らかな笑い声が聞こえてきそうなそんな気がしてなりません。

先生は私達にたくさんの思い出を残して下さい、最後まであきらめない、という真摯に生きる姿を示して下さいました。先生、どうもありがとうございます。

敬具

千坂先生のこと

企画室 佐藤正幸



千坂満朗 名誉教授
1998年11月逝去

「パリッ、パリッ、パリッ」：「ドッ、ドッ、ドッ、ド」。

千坂先生といえば、ハレーレイ・ダビットソンとの音を思い出す。晩年はオートバイをおりると杖をついて歩いておられた。ところが、息子さんにはオートバイに乗ることを許さなかったのだからおもしろい。千坂先生の面目躍如というべきか。また、授業中の教室の近くを通りかかると、明々たる声が聞こえ、人数は多くないものの、学生は熱心に哲学の講義に聞き入っていたものである。

ある時、故田所伴樹と当時西京極にあつた先生のお宅に伺ったことがある。お世辞にも立派な家とはいえないが、英、独、仏はもとよりラテン語、ギリシャ語にいたる高価な書籍が壁面を覆い、家が沈みそうであった。経理課によく顔をだして借金の相談をしていた謎が解けた思いであつた。

娘さんはふたりとも精華の出身であるが、長女の道子さんは私も基礎ゼミで教えたことがある。実存哲学に興味をもっていたが、その後を見てみると、千坂先生が理想と思っていた女性像をみているようである。

先生は亡くなる前にしばらくドイツで過ごされた。さぞかし楽しくまた嬉しかったにちがいない。

EDO NO KAWARABAN

江戸の風版

編集：78D西垣克路、77Pイモト2号
デザイン：77Pイモト1号

5

1999年8月編集・木野会東京支部事務局
〒270-1145 我孫子市高野山226-2
山倉研志方 [木野会東京支部]

「デメ工達が飲みたいだけで企画したんじゃないかねえのか？」なんて非難も聞かえてきそうな東京五月祭。急遽決定した5月29日という無理な日程にもかかわらず11人という新人の呼び出しに成功。



朝が来るまで飲み明かすという、今は母校でも不可能な事がさも当たり前のように進行して行った。静かな力を秘めた新たな参加者を得て東京支部はどう変わって行くのかそんな事はだれにもわからない。それはアンタが決めるこった。

東京に潜伏中の30名 Ebisu に集結!

東京五月祭のよるのこころ

でも、何故か泣いていたのだ。時は午前1時、恵比寿。横はチユーペーがいきまをかいている。3週間くらい前、一通の手紙がきた。「東京五月祭」へんを響きたなあ。案内を手にポストの前で、すっきりしなくて1分くらい立ちすくんだ。

私も、返信ハガキの「参加」のしるしにまると付けた。会場へ入ってみると、想像より上の、随分大人の人達がたくさん居た。当然、知らない顔ばり。自己紹介。どうやら大半は美術の人たちのおようだ。美つて伝説の黒ボックスを燃やしたって...? てことは、五月祭の生みの親なんですか。へつへつ。あつ、修学院住んでたんですか? 私、八幡前だったんです。同志社高校の近所。グリル宝って行きました? そつそつ。燕込みかつ井がおいしいの! でもレタタのB定が懐かしいよね。レタタの喫茶店? ありますよ、まだ、なんぞでしてたっけ。68年度生から97年度生といったらばらばらの年代の人間が、こんな話で繋がって盛り上がりつつゆく。あの山奥の、あの大学のなかでしか通じない言葉たちが、いかにも人工的につくられた小綺麗な街のなかで通じてる。懐かしい感じ。初めに会った人ばかりなのに、懐かしい感じ。例えば、2次会が終わって3次会の場所へ移るのに、路上に座って話し込む人達を振る酔った中平さんをみんで笑ってなだめる。あ、これって五月祭の風景と一緒だ。横にはひびきりな山の手線電車が走ってる。私は妙に嬉しくなった。

3次会、場の雰囲気はなんら変わり無く和やかだった。五月祭の生みの親である彼が、突然、私に言った。「空間恐怖症みたいだね、なんか。」「一生懸命さ、伝わるんだけど...」彼の言葉に、古い卒業生の人たちが頷く。

言葉の意味は、よく分からなかった。だが、でも、何故か涙が溢れた。私、夢だつた会社で、作りたかつた本を作ってる。ちよこつとライターの仕事もしてるので、年上の人と飲んだり、知らない人と会話するのは慣れていた。学生時代のように、人との手ごたえや充実感が私を突き動かしてくような、そんな生活。走りつづける、毎日。友人との密接な関係、親に養われることのお苦



いた。ここは東京。仕事以外の場、鬱陶気を悪くしたくなかつた。なんとか泣くのをやめなさい、と必死に喝咄をのこももに食いつめながら、私はたつた半年で、勝手な東京係に慣れてしまつてゐるんだな、とぼんやり気がついた。泣いたという事象が、そういうものだ、と諦めに変わつてきた。東京のイメージが鳴り続け、上司に怒鳴られ、原稿を書き上げたときには朝がやつてきていて、精神や肉体の限界のなかで、でもそれが苦になんない程の手ごたえや充実感が私を突き動かしてくような、そんな生活。走りつづける、毎日。友人との密接な関係、親に養われることのお苦

しき、近い将来への漠然とした、でも確実に突き付けられる不安。いかにも文学的な痛みに「悩む」ことがどうしようもなくなる痛かつた私にとつて、勝手な「そんな生活」に対する憧れは中退という答えに導きだした。そして、東京へやつてきた。夢が叶つて、半年が経つた。私は走つて、半歩を歩いた。とな、朝がきて、また新しい次の日が始まる。私には生きてる。やつてくるから、私は生きてる。本意でへらんと笑つて、適当な相槌を打つていつのまにか、その日その日をやつて過ごす方法しか頭になかつた。たぶん、彼の言葉が無い限り、私はその場をやり過ぎる。中途半端に場を盛り上げて、やっぱり京都はいいよね、なんて言葉で。4次会、午前3時、目黒。カウンターの静かな音楽が流れる。長い椅子に座つて、彼が私に話した「ボブ・ディランの30周年ライブがあつた。湾岸戦争に反対してたシンニード・オコナーがそのステージに立つた時、まじいライブが起つたんだ。何万人のライブの中、尻込むバンドをよそに、彼女は歌い始めた。黒と、堂々と、歌いあげて、彼女は泣きながらステージの袖へ走る。そんな彼女をニール・ヤングが抱きかかると、ぎゅと。たぶん、東京はそういう場所なんだ。ライブのなが、ステージのまん中に立つ。つことなだ、思つたよ。」彼は、知ってるんだと思つた。いや、その夜参加した卒業生たちはみな、知ってるんだ。ライブの声を、ライブのなが、立つ。この辛さを、そして、いまここに居る。

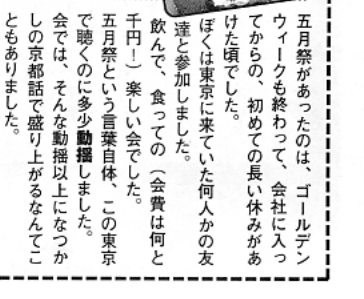
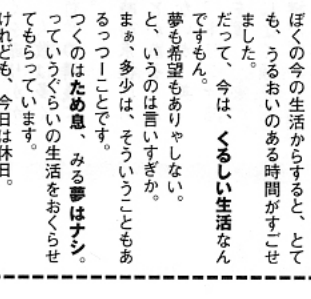
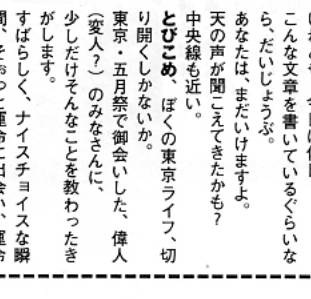
私は、ライブの音が流れることしか考えて無かつた。でも、イメージしていた、夢だつた東京はそれを引き受けなければ現れない。手ごたえや充実感が私を突き動かしてゆく瞬間には、訪れない。バーのドアを開けて外へ出ると、空は白々と朝に近づいていく。だんだんぼつてみよう、と思つた。そして今日会った人達はきつと、ニール・ヤングなのかもしれない、と思つた。やっぱり五月祭は面白い、きつと、場所の問題だらつと東京だらつと、要は、出たいのはなしてあつて、環境や関係や時間はない、出たい、という姿勢、私達は手を握つて別れた。また会おうね、と言つて。

96人文 岡田秀枝
雑誌編集社勤務

飲んで、食って会費は千円!

95デザイン 角田泰秀 デザイン会社勤務

五月祭があつたのは、ゴールデンウィークも終わつて、会社に入つてからの、初めての長い休みがあつた頃です。ぼくは東京に来ていた何人かの友達と参加しました。飲んで、食つて、(会費は何と千円)楽しい会でした。五月祭という言葉自体、この東京で聴くのに多少動揺しました。会費は、そんな動揺以上になつたのか京都話で盛り上がるなんてこともありません。ぼくの今の生活からすると、とても、うろおひのある時間です。こせました。今、は、くるしい生活なんですもん。夢も希望もありやしない。と、いうのは言いすぎか。まあ、多少は、そういうこともあつていいです。つづつのため息、みる夢はナシ。つづつという生活をおくらせてもらっています。けれども、今日は休日。こんな文章を書いているくらいなら、だいたいまぶさ。あなたの、まぶさ。天の音が聞こえてきたかも? 中央線も近い。とびこめ、ぼくの東京ライブ、切り開くしかないか。東京・五月祭で御会いた、偉人(愛人)のみならず、少しだけそんなことを教わつた気がします。すばらしく、ナイステイオイスな瞬間、そつと運命に出会い、運命に笑つた。佐藤伸二も、いつてたし。



KINO WEST 3

今回から名前が新しくなりましたこれからもよろしく。



精華大を卒業して早幾年月……。

中四国ではじける精華人パワーを皆様にお届けします。



●山口県参加者
68E 沖和子(古城)
69P 原本洋
71P 堀江綾美(古崎)
75E 小川悦子(谷口)
77D 数井栄子(牧嶋)
71D 宮田佐代子(中村)

3月28日
山口県分会の発足を徳山市で行いました。山口県人6名、プラス西日本支部から2名、本部から2名の出席でした。私も岡山から新幹線に乗り込みいざ山口へ、ひかりは広島を過ぎもろそろ徳山かなーと思っていたら、なんと新幹線は徳山駅を通過してしまっただけではないか。その時はじめて、ひかりは徳山駅に止まらないことに気付いたのだ。てな訳でまたまた会合の始まる時間に遅刻。息せき切つての会場へ、挨拶もそこそここにビールを注文しようとしたら、何と山口県発起人の沖和子さんより「今日はビールありません。」のきつい一言……。



●徳島県参加者
70D 白濱恵子
78D 木内敦子
78D 原田明子(三代)

5月23日
原田さんの協力により第1回目の徳島県での会合を開くことになったのである。京都から赤坂元会長をはじめ錚々たるメンバーが徳島に乗り込んでくると、岡山、香川からも錚々たる飲んべいが出席をするというのに、徳島県内の出席者が集まらない。開催1週間前から原田さんの電話作戦が始まったのだ。ほとんどの人の電話番号が分からないので住所を元に電話帳で探したり、嫁ぎ先の電話を聞き出したりで徳島県内全卒業生90人余りのうち55人と連絡をとって頂きました。当日参加できたのは3人だけでしたが次回はかならず出席させてほしいといわれる方が大勢いらっしゃいました。原田さんとてもお疲れさまでした。徳島県分会の2回目からの会合は盛大なものに成るでしょう。徳島県在住の方も各々活躍されていて、意義ある情報交換の場になりました。残念なのが、ホテルのウエイトレスさんに撮ってもらった全員の集合写真がプレブレでここに掲載出来ないことです。他府県からの遠征組みは2、3次回と飲み歩き帰路につきました。



71T 藤川春子(松平) 香川県

織専攻でしたが、幼稚園で草木染めを指導したのがきっかけで草花の持つ色合いの美しさに引かれ、自然採取してからの染色を幼稚園の親子、公民館でのご年配の方々、小学校のお母様方と一緒に取り組んでいます。草花の持つ美しさとともに、染め上がった布が取り持つ人間同志の心のふれあいを草木染めの制作を通じて楽しんでいきます。

91J 西澤智子 香川県

講師をしながら日本画の制作をしています。昨年は香川県勤労者美術展において商工労働部長賞をいただきました。また今年6回目の県展出展では、兄の子供をモデルに人物に挑戦しました。結構満足のいく作品に仕上がりました。今後ともいろいろと幅広い活動をしていきたいと思っています。



ILLUSTRATION ISLAND

1999年10月27日



74D 津下勝年 岡山県

インターネットでイラスト(カット)を販売する事業を始めました。まだまだイラスト素材の数が揃っていませんが、行く行くは1万点位は揃えたいと考えています。一度ホームページを見てください。また、イラストを描いている方にギャラリーを開放しています、ご自分の作品発表、仕事の売り込みにもご利用ください。

<イラストレーションアイランド>
<http://www.urban.ne.jp/home/ozac/>

76E 安藤弘子(小野) 岡山県

精華を卒業して22年。二度の離婚を乗り越えて3人の子供と共に、カレー屋を営みながら、たくましくやっています。カレー屋は今年で9年目。カレーの味はこれって決まったものではありませんから、私は私の味を気に入ってくださるお客様を大切に10年目に突入します。岡山の方一度私の店におい出んせーよ。店の一角に小さなギャラリーがあります。あなたの展示会に利用してください。 1日/500円 カレーの店ボン・ヴォイージュ 岡山市倉田357



72 E 立岡洋子

初期の精華人は50歳を超えたり目前だったたり、平均寿命80才近いとはいえず残り30年間いかに思い通り身体が動いてくれるかと同時に頭脳はいかがなものか。現在の得意・専門分野の造形の深さのみならず、新たな興味を湧きせよから学習しても今後20年近いキャリアを積み重ねるはずだ。若いから出来た事と年齢を重ねてこそできることを自身の中で整理すると、おのゝ山田前に「Long and winding road」が広がる。そして気付く、年をとると日常生活が忙しくなることに。その忙しさを苦にせず涼しい顔で消化するものこそ「do good or nothing」の答えをスマイルで返すものとなる。

精華人30年

特集

開学当初の卒業生に、ご自分の10年後というテーマで書いていただきました。

開学当初の卒業生は50才を迎え、一見、円熟した人生を送っているように見える。しかし、女性の多くの方は年老い自分問題を抱えている。人生の後半にさしかかり、自分自身を高め、完結させたいという欲求と現実の狭間で葛藤している。精華での数年は、それぞれ最期の人生で最も輝いていた時期だった。そして、その時期に得た精華スピリットは30年を経過した今でも心の柱として血を熱くさせる。99年末恒例の7時間耐久西日本支部忘年会の季節が近づいた。君もこの日のために身体を鍛え、体調を整えて参加して欲しい。今日の精華の礎を築いたのは、間違いなくこの先輩のエネルギーだということを実感できるであろう。

68 E 万代孝子(大河原)

60代は仕事に励み、歌舞楽曲をたしなみ、出来る範囲でボランティア活動もして行きたい。又、足腰の確かな内海外旅行も足繁く。70代は、ゆったりと穏やかな日々を楽しまたい。足長おばさんも経済が許せばしてみたい。これが希望の未来像。しかし、それには心身共に健康でなくては。母は痴呆と縁遠いと思われ共々元キャリアウーマン。それが悲しい事に72才から徐々に痴呆に。母・娘の間由、昔の姿と現実がオーバラップ。愛憎も深く、母も私も辛い思いをする事に。痴呆介護の大変さは一緒に暮らした人でなくてはとうてい解りません。介護保険がスタートしますが、認定者に経験がないと、本当の所は解らないでしょう。私は老いて近親者を苦しめたくないで、介護が大変になったら迷わず施設に入れてくれる様頼んでおきます。でも、どんな所でも良いのではありませぬ。「良いケアをしてくれる、快適な施設」と注文をつけておきます。これは、私自身、母のために10カ所以上の施設を見て、経験して感じた事。費用は同じでも、内容は随分違うのです。「死ぬまで現役」これが私の願いです。神様、仏様、よろしくお願ひいたします。

68 E 沖和子(古城)

「私の10年後」は... 41歳で早くもおおあちゃんになった訳ですが、現在小学五年生の愛娘の結婚の事わしているか、定年退職した主人と旅行したり、はたまた、未亡人になっていたりして。20年後は私自身、黄泉の国にいたりして。えに、生きていたら一人っ子なので、ほけ老人の世話で大変な時かも...

Time Slies



69 D 富明雄

ホイットマンの言葉に「若いものは美しい。しかし老いたるものは若者よりもさらに美しい」とあります。人生の年輪を光らせている姿ほどすがすがしいものはないと思います。高師の方が人生の最終章を悠々とした総仕上げをするためには、本人の生き方、信念が問われる時代に入りました。そして、それを支える社会、高齢者を尊ぶ気風の確立と密接に関わって行くと思われまします。トルストイは晩年人生において一番幸福な時期と振り返ったのは30代に地域の青少年の教育に情熱を捧げた時代であったと回想しています。子供達の中に飛び込んだ人間教育を実践した時代でした。私は50歳を目前にして今、ポイイスカウト団委員長として地域の少年少女達40人と共に国際交流、野外教育を通してボランティア活動を行っています。美容業の合間をぬっての活動ですが、生涯スカウトとして、新しい人材を育てることが新しい世紀を育てることだと確信し活動しております。



68 P 渡辺直美(園子)

私は第一期の卒業生でもう50才になりました。思ひ返せば早いものです。卒業して就職して結婚して子供達を育てて、そして姑と同居して、老いた親が痴呆になれば介護をして、気が付けば老いた親に白髪が生える年になってきた。ここまでは書くのはとても簡単ですが、実には濃厚なものです。ストーリーが書き尽くせない程あります。一口では言い尽くせない痴呆の種類があると思います。又、その人の人格によっても色々違っていると思います。私の場合主人の母ですから、頭から何かにつけ遠慮があります。ここで皆様にメッセージを送ります。家庭を持ったら一軒家を持つたらなるべく子供が大きくなる前にリホームして親を迎えたらあまり移動せず、落ち着いた生活が出来るように頑張りましょう。以上です。ピンポン。

しまなみ海道 大三島より

73 E 国定益恵(川上)

島が変る。島でなくなる。そんな複雑な思いで橋の建設を見守ってきた。平成11年5月1日「しまなみ海道」と称し、瀬戸内の島々が七つの橋によって本州と四国が陸続きになったのだ。この期とばかりにこの島も観光ブームに沸き大三島も例外でない。新しい土産物店などが建ち並び連日お客様で賑わっている。橋の開通によりTV・新聞で瀬戸内上空よりの写真を見るにつけ、まるで箱庭のような美しさだと、改めて身近かな島々を語り思っ。若い人が少なく、特に大三島町は全国でも上位に位置する過疎地域だが、静かでのんびりとした瀬戸内の島々に多くの人が訪れ、島の自然と美しさを一時でも満喫してほしいと思う。



KINO WESTでは「木野会西日本支部のお手伝い」をしてくれる人、「会報へのご意見」や「個人活動などの情報」などを募集しています。また、会報に載せて欲しいことがありましたら、「人探し」でも「近況」でもなんでも受け付けてます。送付先は発行所、又はE-mailでならozac@oka.urban.ne.jp 津下宛まで。皆さんの声をお持ちしています。

西日本支部には岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛の各県分会があります。今後、鳥取・島根・高知・福岡県の分会を発足したいと考えています。協力者、情報提供者をまっています。

WHO'S WHO

絵画同窓会

卒業後から始めたグループ展が今回で17回目。今年は8月10日、15日まで、京都ギャラリーFで行ないます。1977年度入学、洋画専攻の私達。今や皆40才を過ぎる年齢になったとは驚くばかりです。中味は在学時と同じくとも変わらぬと強がっています。

有志で始めたグループ展。現在メンバーは、18名程。内3組の同級生夫婦がいます。毎回全員参加ではありませんが、10、15名で作品展を開いてます。軽気持で始めたのがいつしか精秀会という名がで、回を重ねて17回。画展のオーナーも大学の仲間です。グループ展は続いても2、3回がせいじです。こんな継続しているのは珍しいとおすそ分けをいただける程し



去る8月21日、日本に一時帰国中の長谷川治清先生を囲んで京都精華短期大学英語英文科一期生を中心に17名が集まりました。中には8期生の那谷智子(旧姓・川瀬)さんも東京から参加して下され楽しい時を過ごしました。

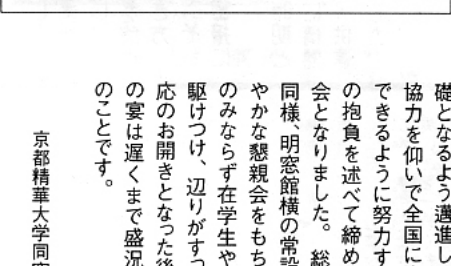
長谷川先生は9年前、イギリスシェフィールド大学の教授として渡英なされ、以後数多くの卒業生を日本に送っておられるとのこと。王に大学では経済学を教え、日本研究所の所長も兼ねていらっしゃるそうです。

今年は6ヶ月間、関西学院大学の客員教授として迎入れら



こくやっています。住所も仕事や結婚、実家、帰るなどで、東京、埼玉、岐阜、大阪、滋賀、京都、広島とバラバラ。それぞれ分野で活躍中又は子育て奮闘中の忙し制作ですが、年に1回のこの時はかりと制作して、今や皆の年中行事の一つとして組み込まれるに定着しています。嬉しい事に「毎回楽しみにしている」というファンの方も何人か出て下さり続けるという事はいまだに実感しています。大学の思い出は数知れず、皆あの熱か時代の思いを分かっています。

徹夜で制作した卒業制作。下宿での生活。学園祭で作った大壁面四十八手浮世絵。巧木学舎での、球技大会で賞品のお酒をとる為の野球、バレー



ボル、バスケの試合を必死で戦ったこと、球技大会の賞品が日本酒やビールなんて事は他の大学では考えられない事ですね。ちなみにその時のチーム名はデイルウィングス、ビールや日本酒しかいらないので、祝勝コンパやりました。

私達は精進本当にたくさんものを得ました。現在の精秀会の仲間もそうです。えー筆者である私も大学を去る90したことは大きな収穫でした。ハハ。

今後も精進展20回と続けていきたいなと思います。来年も8月22日、27日、京都寺町三条ギャラリーFにて予定しています。見に来てくださいね。

山田 葵(旧姓山下)(77P)

WHO'S WHO

英文科同窓会



去る8月21日、日本に一時帰国中の長谷川治清先生を囲んで京都精華短期大学英語英文科一期生を中心に17名が集まりました。中には8期生の那谷智子(旧姓・川瀬)さんも東京から参加して下され楽しい時を過ごしました。

長谷川先生は9年前、イギリスシェフィールド大学の教授として渡英なされ、以後数多くの卒業生を日本に送っておられるとのこと。王に大学では経済学を教え、日本研究所の所長も兼ねていらっしゃるそうです。

今年は6ヶ月間、関西学院大学の客員教授として迎入れら

れ、9月中旬にはイギリスへ帰国されました。先生の温かいお人柄は30年前と変わることなく又とても真面目に人生を考え、行動なさる姿に改めて感動され、皆一同学生時代にもらった気分で、日々勉強、明日から又頑張ろうと言いきかせたのでした。

又、久し振りに出逢った一人一人が近況報告をはじめながら苦言や話や、失敗談をよくの間に話したり、それらも皆よく聞き入り、自分の事とらし合せて、反省も、安心も、あせりも感じ、有意義な時間が

という間に過ぎ去り、仲間間で本当にいいなあと言いつた会はお開きになりました。新大阪のワシントンホテル、最上階のチャイナ・テールからの景色もいつのまにか夜景になっていたました。そして次回はオンラインでも本気でも解らぬ事を言い作ら別れを惜しまました。

この様に誰かを囲み、皆で集まれる幸せに感謝しました。皆様、何か機会をとり、どんな集まりましよう。そして同窓会にお便り下さい。



荒賀 依右子(旧姓青谷)(68E)

WHO'S WHO

30th

染織・テキスタイル同窓会

9月26日(土)に染織テキスタイル創立30周年同窓会が華々しく行われました。

北は仙台から、南は沖縄までの、第一期生(69年度生)から、第27期生(95年度生)までの総勢143名が大学に集まりました。

近況報告では、インドネシアから、エメールで出欠ハガキが届いたり、現在、パリやロンドンに住んでます等々の連絡があったりで、卒業生の皆さんの活躍が多数寄せられ、会場でご報告致しました。今回は、創立30周年ということで、卒業生の皆さんに寄付金をつりの、テキスタイル



イル分野に寄贈致しました。寄付金を心よくしてくださった皆様に感謝いたします。「ありがとうございました」。そして、この機会に住居録の再編も進めることのでき、テキスタイル研究室、大学事務局、同窓会(木野会)に新住所を登録させていただきました。また次回速やかに案内させて戴く為に住所変更の折には、大学の企画室まで一報下さい。

当日は、1時から、大学内の見学会を催し、生まれ変わった精華を体感していただき、3時より、大学の食堂において、懇親会を行いました。テーブルごと



に各学年の懐かしい顔ぶれが集まり先生方との会話もはずみ、楽しい時間がアツという間に過ぎていき、約2時間半の楽しいひとときを過ごしました。つもる話つきなことで、約半分の方が二次会のカントリーハウス(ホンキートンク)でまたまた話に華を咲かせていました。

何十年ぶりにみる、皆さんの笑顔が、とても印象に残りました。

76T
善田 康豊

第十一回総会は一九九八年十一月三日に黎明館一〇二教室で行われました。議長には評議員から林哲生氏(89L)を選出。会長の赤坂博(68P)が開会の挨拶をし、大学開学三十周年記念行事が木野会および多数の同窓生の参加と協力によって無事に終了したことの感謝の言葉を述べました。議案提案は理事の新谷一男(70P)が九八年度の活動報告と九九年度の活動計画を発表し、次に専務理事の谷真美子(69E)が九七年度の会計報告および九八年度会計中間報告と九九年度の予算計画を説明し、続いて新谷が一九九九年度の役員・評議員の顔ぶれを伝え、赤坂の会長勇退および相談役就任、荒賀依右子(68E)の副会長退任が発表され、新副会長には副会長の入江完(68P)、副会長に谷、専務理事を新谷とする提案がなされました。こうしたすべての議案に会場からの異議はなく満場一致で可決され、最後に新会長となつた入江が赤坂と荒賀へのねぎらいの言葉をかけた後、自らが次世代へ繋ぐ礎となるよう邁進し、同窓生皆様の協力を仰いで全国に支部を順次設立できるように努力する所存であるとの抱負を述べて締めくくり、無事閉会となりました。総会終了後は昨年同様、明窓館横の常設テントにてささやかな懇親会をもちました。同窓生のみならず在学生や教職員の方々も駆けつけ、辺りがすっかり暗くなり一応のお開きとなった後も居残りつた人々の宴は遅くまで盛況のまま続いたとのことです。

京都精華大学同窓会、木野会、理事
宮城明和(77E)

第十一回木野会 総会報告

THIS IS MY SPACE

岩倉幡枝、北山通りから深泥ヶ池を通り抜け精華関係者なら必ず一度は通ったことのある路沿いにイタリヤの旗が風になびいている。その隣に美味しいピザとボリュームたっぷりのスパゲティを食べさせてくれる店、FATFISHがある。オーナーは82Pの榎田貴之氏。彼がこの店を始めるまでには多岐にわたる過程がある。大学卒業後、絵が描きたいその一心で海外へ放浪の旅にでるが、悪の嵐に落ちてしまう。何をしてもダメ。駄目につきのある日、店を任せられるそんな転機が訪れる。その店で自信をつけ、中央市場で資金を作り平成7年4月1日、FATFISH開店にこぎつくだ。元々人見知りの強い性格上、初めお客さんが入ってくるに緊張してしまい、つられてお客さんも緊張していたという。今では、月に1、2回貸し切りパーティーもあるそう。美味いものをたっぷり食べてもらうためのメニューは、他の店では見たことのないほどのバリエーションだ。

せひ家族や、友達とワイワイと、FATFISHに出掛けよう。

●ナガララフティングスクール
新潟県南魚沼郡塩沢町野沢1673
青い森コテージ内
TEL. 0257-83-3332



京都、東京、新潟と、流れ流れて20年

佐々木ゆみ子(旧姓 赤路)(77E)

たった2年しか過ごしていないのに、なぜか「精華」という名前は忘れて頃に追っかけてきます。何しろ嫁にきた新潟の田舎の山にまで原稿依頼がくるほどですもの。

精華に進んだ理由は京都に住んでみたいと思ったから。卒業後も、コピーライターになりたいと思っていたら知人が仕事を紹介。結局フリーランスで10年、6Bの鉛筆で原稿用紙のマスを埋めていました(手書き原稿の時代です)。その後仕事でB&Bスタイルの宿のことを知ると、今度は宿泊業もいいなと思いはじめ、ふとした縁でスキー場で宿をやっている主人と知り合い結婚。新潟といっても湯沢の隣町だから東京から近いし、ファックスがあるから仕事も続けられるしとしばらくは新潟と東京を行き来し、宿を手伝いながら(忙しいのは冬だけだったので)原稿書き。しかし、仕事は甘くない。子供が生まれ、打ち合わせに行けないとなるとブツリ。まあ、それはそれでいいかと子育てに専念。現在はというところ。新潟のタウン誌のライターをやらせてもらっています。大きなゴタゴタ、小さなトラブルいろいろあったけど、思ったことが実現できているかな。

今後の大橋屋はインターネットを駆使した展開を計画中心とか。本店、ホームセンター、ガラス施工・修理、まだまだ何が登場するか目が見えない。生涯現役で試行錯誤しながら商売を楽しんでいる。そんな大橋屋さんを探してみたいかがでしよう。金魚鉢も売ってましたよ。



〒520-2100 大津市瀬田一丁目17-13
TEL. 0775-45-0028(代)
FAX. 0775-43-4417



COFFEE & LUNCH

FATFISH



榎田貴之 (82P)

岩倉幡枝、北山通りから深泥ヶ池を通り抜け精華関係者なら必ず一度は通ったことのある路沿いにイタリヤの旗が風になびいている。その隣に美味しいピザとボリュームたっぷりのスパゲティを食べさせてくれる店、FATFISHがある。オーナーは82Pの榎田貴之氏。彼がこの店を始めるまでには多岐にわたる過程がある。大学卒業後、絵が描きたいその一心で海外へ放浪の旅にでるが、悪の嵐に落ちてしまう。何をしてもダメ。駄目につきのある日、店を任せられるそんな転機が訪れる。その店で自信をつけ、中央市場で資金を作り平成7年4月1日、FATFISH開店にこぎつくだ。元々人見知りの強い性格上、初めお客さんが入ってくるに緊張してしまい、つられてお客さんも緊張していたという。今では、月に1、2回貸し切りパーティーもあるそう。美味いものをたっぷり食べてもらうためのメニューは、他の店では見たことのないほどのバリエーションだ。

せひ家族や、友達とワイワイと、FATFISHに出掛けよう。

ピザ: ¥600~¥750 スパゲティ: ¥550~¥800
貸し切りパーティー: 20人~入れるだけ一人¥2000~ 相談に応じて
☆壁面を無料貸し出しギャラリーにしているので、陳列を希望する人は実物か、写真を持参し相談してみてください。

営業時間:
11:30~2:00
6:00~11:00
日祝は夜のみ
定休日・火曜日
〒606京都市左京区
岩倉幡枝1231サン
ライズヒガシ1F
TEL. 075-722-6880



有限会社 大橋屋

北井和歌子(旧姓 岸本)(73D)



1867年、明治元年日本の夜明けを感じ始めた時代、東海道を近江商人が荷を担ぎ東へ西へと往来する瀬田宿。唐橋の東詰に一軒の旅籠が開業した。大橋屋である。当代で五代目を数える大橋屋は、その時代と共に姿を変え、旅籠から道具屋、桐箆等の端材で作った下駄の販売、荒物屋、戦前後の瀬戸物、洋文化の市民権を得たガラス食器、板ガラス。そして消費者の必要性を得た商品が現在の店頭を飾っている。下駄屋、履物屋が全国各地にあれども、瀬戸物と下駄が共存した店頭は珍しいであろう。77年新店舗になった大橋屋に家族として参戦しているのが北井和歌子さんである。商売と言う響きに、自分の腕次第で良くも悪くもなってしまう駆け引きの世界に魅力を感じると言う。今、北井さんは、学校給食器に関心をもっている。ポリプロピレン、ポリカーボネイトなどの素材の安全性、雑に扱っても割れない食器への疑問。調査、研鑽し環境問題にまで上り詰めた。

同じような疑問から生まれた磁器食器の開発が、各産地で行われており、地元でメーカーを集め10年、ここに来て全国レベルでの商品化に動き出したと言う。自身自身が納得し、時代が必要としているものを消費者に届けたい。

今後の大橋屋はインターネットを駆使した展開を計画中心とか。本店、ホームセンター、ガラス施工・修理、まだまだ何が登場するか目が見えない。生涯現役で試行錯誤しながら商売を楽しんでいる。そんな大橋屋さんを探してみたいかがでしよう。金魚鉢も売ってましたよ。

WHO'S WHO



WHO'S WHO



**ビデオレターで失礼します。
先生、皆さんお元気ですか？**

昨年、仙台・新潟・北陸・長野・東京・大阪・滋賀（信楽、瀬田）・西日本各地で収録され10・10・10「精華人の集い」当日に写しだされた約80人のビデオレターの中から同窓生の声を紹介しましょう。

東京 ㊦森 喜郎 68D

僕の顔を見て、懐かしいと思う人と、こんにゃろと思う人がいると思う、そういう出会いが非常に良かった。東京にもたくさんの精華人がいて、同窓会もあるし事ある度に酒を飲んで相変わらずの凄さです。新しい卒業生も、古い卒業生もいろんな絆が出来て楽しいです。これが一番大きな財産かも知れないと思います。これから卒業する人に、京都に引っ込んでないで東京において。危ないこと、チャンス、お金も儲かり、貧乏もできる。



東京 ㊦柳内 佳代子 (旧 花尾) 70D

共に年を取りまして、精華より3歳若いですが。所沢の方でがんばってます。



仙台 ㊦生駒 洋一 80XZ (J)

仙台に移り7年目、中学校の美術教師をしています。まちがって結婚してしまったという嫁さんは同級生の快枝さん(旧姓 鈴木)です。



東京 ㊦西 優子 (旧 実井) 70D

9年前に京都でクラス会をしたんですが、えらい様子が変わって、私たちも年を取ったなど二人で言っていました。

新潟 ㊦平野 晃一 94L

現在 田舎で就職活動中のため、是非職を紹介してください。どこでも行きます。なにとぞ宜しくお願いします。門間先生、お酒を飲み過ぎないように、肝臓を大事にしてください。☆就職はできたのでしょうか…。



WHO'S WHO



東京 ㊦平尾 律子 (旧 新池)
田中 君子 (旧 是友)
梶原 喜美代 (旧 立花)
みんな揃って69D、精華寮！



東京 ㊦西尾 泰光 79D

東京に出て来て、日々暮らしているんですが、働かなくても食べていける方法をどなたが見つけた方いらっしゃいましたら、是非教えてください。



新潟 ㊦佐々木 ゆみ子 (旧 赤路) 77E

赤路という名字だったので、学籍番号2番をいただきました。お陰で、追試とか貼り出されると皆に「名前貼ってあったよ」とよくいわれてちょっと嫌な思いをしていました。今は、のどかな塩沢町に住んでいます。



WHO'S WHO

信楽 ㊦深田 充夫㊦

75S
現代彫刻をやっています。何とか食べています。仕事ください。

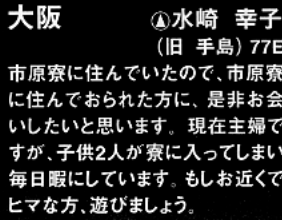


㊦杉本 泰彦㊦

76S
泰造先生、長谷川先生、陸一郎先生、ご無沙汰しています。陶器祭りに是非松明を担ぎにきてください。子供3人、何とかやっています。仕事も一度見てほしいと思います。今日は、深田さんと会えてうれしい!



WHO'S WHO



長野 ㊦市川 林太郎 90M

僕は今まんがを描いています。食べていけないのですが、食べていきたいです。

西日本 ㊦城岸 真由美 (旧 池田) 74E

学生時代の思い出は一杯あります。高校を出て、初めて自由になれた時間というのは、もの思いにふけったり、孤独な時期だったような気がします。事務局の藤井さんと花園ラグビー場へ試合を見に行ったというのが一番の思い出です。藤井さん、お弁当を作っていたんですが、あのときの味、覚えていますか。



瀬田 ㊦坂口 哲洋 91L

卒業してあまり経っていないので、僕のことを知っている人は少ないと思います。これからどうぞ宜しくお願いします。



WHO'S WHO



北陸 ㊦桑野 博治 70E

今、金沢に来ています。皆さんお元気ですか

懸賞作品募集

「表紙デザイン・文中カット大募集」

木野会会報誌では、誌面に使用する作品を広く募集しています。

表紙面を、思い切りあなたの絵・デザイン・写真で飾ってください。また文中で使えるカット画もお気軽にお寄せください。

●賞金・賞品

表紙デザイン1点…3万円
文中 使用カット1点に付…テレフォンカード

●応募方法

サイズ:縦18cm×横18cmの中で
技法:イラスト画、写真、版画など自由。ただし色は一色刷です。

カット画:自由に描いてください。

作品の裏には必ず作品のタイトル・コメント・住所・氏名・学籍番号・電話番号を記入してください。

●締め切り 平成11年12月末日必着

●宛て先

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
京都精華大学同窓会木野会「会報 表紙デザイン」係

●表紙制作者 吉津雅一(83D)

1997年夏から、芦屋市図書館で中学生、高校生を対象にしたフリースペース「ヨッシーくらぶ」を開いている。地元の中高生を中心にした「たまり場」となっており、そこでは勉強、音楽、自由様々で私の時代の精華にたとえれば「テント下」のような雰囲気がある。すぐ切れるなどと言われがちな彼ら、彼女らだが、やつらの世界もなかなか面白い。

木野会から

同窓会会報「精華人」しゅっぱーっ!

長い間、会報の名称が決まらず大学発行の「木野通信」と混同されていた「木野会報」ですがこの度、30周年「精華人の集い」から名称を頂き、精華に係わった人びとが幅広く参加、利用できる誌面をもとめて「精華人」と改められました。精華らしい誌面をみんなで作りましょう。

「精華人」は会員にのみ配布

精華大学同窓会会報誌「精華人」(旧、木野会報)は、毎年一回会員にのみ配布されています。

今年で第7号目を発行する同窓会会報は、毎年10月に会員の皆さんに発送しています。各地域で、もっと最近の大学の様子、先生のことや同窓会などの情報が知りたいといった意見を伺います。同窓会

会報ではそういった意見を取り上げ、会報誌の充実を計って行きたいと思っています。また、一人でも多くの方が木野会に参加されることを望んでいます。また、「精華人」の届いていない、未入会のお友達を是非お誘いください。

「入会は簡単」

郵便局備付けの用紙に学籍番号(入学年度・学部・学科)、住所・氏名(旧姓)電話番号を記入の上、終身会費1万円をお振込みください。

口座番号:京都0・42332

金額:10,000円

京都精華大学同窓会木野会 宛

「ご投稿のお願い」

○木野会会報「精華人」にふさわしい新コーナーのアイデアを募集しています。

○「Who's Who」のコーナーへの投稿・取材依頼、お待ちしております。

○展覧会、個展、イベント等の広報コーナー充実のため情報をお寄せ下さい。

「お願い」

卒業生宛の郵便物が転居、住所表示変更などのため返送してくる場合がかなりあり、多くの卒業生が消息不明のままになっています。お友達の中で「木野通信」や木野会に入会しているのに「会報」等が届いていないという方がおられるようでしたら、必ず同窓会「木野会」事務局まで、その方の氏名(学籍番号)と変更された住所をご一報ください。

また、お問い合わせ等がございましたら、ご遠慮なく「木野会」事務局までご連絡ください。

総会のご案内

「第12回 木野会総会」

と き:1999年11月3日(水祝)午後2時~
と ころ:京都精華大学・黎明館

木野会では毎年「木野祭」開催最終日に総会を開いています。会の企画・運営、会計報告などを会員の方々に報告し意見を伺う場としています。また、総会後は学生気分、同窓会ブースで一息いれて、在学生達の模擬店・フリーマーケットに入り込んで楽しみましょう。
降りたら大学、叡電「精華大学前」で降りるもよし、地下鉄「国際会館前」で降りてスクールバスに乗り込むもよし、お友達と一緒に秋の木野に、お出掛けください。

お知らせ

「台湾大地震、お見舞いと報告」

台湾で9月21日、M7.7の大地震が起きました。連絡の取り難い中、在学生と協定校等の無事が確認できました。同窓生の多くについては無事の確認がとれていますが、まだ、確認のとれていない同窓生については逐次連絡をとっています。元氣な超えが聞けることを信じています。この度の大地震の犠牲となられた方々のご冥福を祈りつつ、一刻も早く平穏な生活に復興されることを心からお祈り申し上げます。

平成11年9月 木野会会長 入江 完

「耳寄り情報」

全学年を対象にした学部・学科・クラブなどの分野別の同窓会を催す場合、同窓会事務局に申し入れれば広報に必要な費用を負担してもらえ制度ができました。幹事さんは要チェックですよ!詳しくは同窓会事務局まで。

「手伝って〜!」

来年4月を目標に同窓会専用のホームページを正式に立ち上げます。現在、大学のホームページ内にある同窓会ホームページは情報紹介のみの構成ですが、今後は、より多くの精華人同志の情報交換と交流の場にしていきたいと計画していますので、在宅スタッフでOKです。ホームページ用にアイデアや文書を書いていただける方を募集しています。

西垣克啓(78D)
連絡先はE-mail:ngaki@a-net.co.jp
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/seikajin/>

「ちゃらんぼらん、レギュラー決定!」

油絵の描ける漫才師でお馴染みの、ちゃらんぼらん大西氏が上岡龍太郎さんの後を引き継ぎ、ラジオ大阪(OBC1314kh)のメインレギュラーに決定された。放送は毎週土曜日、14:30~16:30、2時間放送「ちゃらんぼらんの元氣もってこい!!」聞いてね。

精華パワー爆発!Impulsion in 2000 実験展

美術家、建築家、工芸家、デザイナー等、多分野の作家約100名が、一同に10号の壁面作品で文字通り実験的な作品に挑む。精華大学新旧卒業生が近ごろ面白い作品で挑戦している。ぜひ、ご高覧ください。

と き:99年1月19日~30日

と ころ:画廊ぶらんしゅ

池田市天神1-5-16 TEL.0727-61-2626

兵庫県富山県に巡回されます